

1. 読み聞かせプロジェクト

経済学部一回生 小倉七海

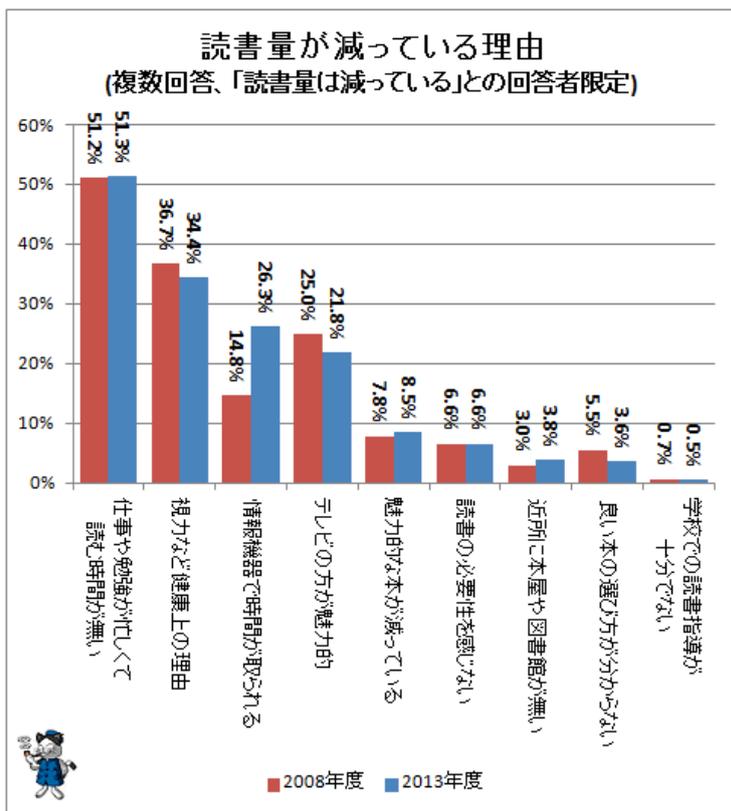
経済学部一回生 宮崎諒

観光学部一回生 日野こころ

2. プロジェクトの目的

今回のプロジェクトは①子どもたちに本への興味を持ってもら②.図書館という存在の必要性を認識してもらう、の2点を目標とした。本とは先人たちの知識の結集であり、それを伝える唯一の手段である。読書はその知識を共有する行為であり、それだけにとどまらず想像力や広い視野、そしてなによりも集中力を鍛える大事な行為である。この班では子どもたちが本を読む機会を設けるためにこのプロジェクトを行った。

近年、スマートフォンの普及により、読書量が減少するという問題に直面している。下図のグラフを見ると、情報機器（スマートフォン、ゲーム、タブレット等）が2008～2013年の区間で急激に増加していることがわかる。



この班では、スマートフォンをあまり携帯することのない小学生の時点に本の魅力を伝えようと、学童保育をプロジェクトの対象とした。

3. プロジェクトの内容

3-1. 企画書の作成

最初に、プロジェクトを実施させてもらう場所を提出する企画書を作成したこの時点で

全員がこのプロジェクトで具体的に何をするつもりなのか、どういう目的でプロジェクトを進めるのかをお互い相違がないよう共有した。

また、ここで小学校での実施を予定していたが、大学生の授業の時間と被ってしまうため、学童保育（プラスリー）にて実施することに変更した。

3-2. アポイント

学童保育（プラスリー）に連絡し、プロジェクトの企画の許可を伺った。この作業は日本の文化と伝統を伝えるプロジェクトの合同で行い、代表として手古さんに連絡を取っていただいた。

3-3. 本の選択 in 和歌山市民図書館

和歌山市民図書館へ赴き、当日読む本の選択や、司書の方に読み聞かせについて読み聞かせのときの注意点や参考書など、いろいろご教授いただいた。

3-4. 大学図書館長への相談

大学図書館長に、このプロジェクトの実施内容、理念などを説明し、図書館のあるべき姿などさまざまな助言をいただき、参考となる本も貸していただいた。

3-5. 下見

実際に、学童保育（プラスリー）に赴き、今回のプロジェクトの具体的な内容説明を行い、その際に、来ていた子どもの年齢層を確認した。

なお、この作業も日本の文化と伝統を伝えるプロジェクトと合同で行った。

3-6. 読み聞かせの練習

大学図書館のメディアルームを使って、絵本の読み聞かせの練習、当日の細かい役割分担、注意事項の再確認などを行った。

3-7. プロジェクトの実施

学童保育（プラスリー）に赴き、息抜き用の手遊びも交えながら、絵本の読み聞かせを行った。



4. プロジェクトの成果

絵本の読み聞かせを行う前、子ども達に『普段本を読むか』というアンケートをとったところ、多くの子が本を読むと答えていたが、一部ほとんど読まないという子もいた。しかし、読み聞かせをはじめてみると、普段本を読まないといっていた子も真剣に聞いてくれたので、普段本を読まない子が本への興味を持つ手助けができたのではないかと考えている。

5. 今回のプロジェクトの課題

絵本の読み聞かせの間で、旗揚げや早口言葉などの簡単な遊びをしたが、子ども達は旗揚げの旗を振り回したり、早口言葉に集中したりして、肝心の絵本を読んでいるときに、集中力が切れてしまっている子が出てしまった。

6. まとめ

プロジェクトの進め方がうまく決まらず、はじめの方は企画内容に入る前の目的を定めることに時間を割いてしまった。そのため企画を進めていくに当たって、ターゲットの決定や内容を話し合う時間が少なくなってしまった。これらは3人のメンバーと教員の方のフォローにより、企画実行までやりきることができたのであろう。今回のプロジェクトにより、私たちの未熟さや考察力のなさを実感する場面もあったが、笑顔の大切さや表現力の必要性を感じることができ、有意義な2ヶ月間を過ごすことができた。